



そら豆

そら豆は 空に向かって 豆がなります。また 腎臓の形は そら豆に似ています。皆様の 気持ちも 上を向きますように...

はじめに

済生会今治病院院長

松野 剛



この度透析センターで透析便り『そら豆』を発行することになったので挨拶をさせていただきます。

当院の透析医療は昭和49年（1974年）に梅田名誉院長が始まりました。当時は血液透析が更生医療として認められたばかりで、当院の透析

は相当に早い取り組みであったと言えます、8台の透析機が導入されたと記載されています。それから40年にわたる事業として継続されてきました。現在では220名以上の方が、当院で血液透析を受けられており、今治医療圏では最も大きな施設です。患者様の増加と共に2011年3月の新病棟完成時には、80床への増床になりました。透析はこの40年で機械も薬剤も進歩してきました。当初には透析寿命は10年と言われていましたが、現在では透析歴30年以上の方も珍しくありません。

しかし、透析患者様の高齢化と共に脳心血管系の合併症などは増え続けています。幸いにも当院には多くの診療科があり、循環器内科、内科、脳神経外科、心臓血管外科などで対応可能な場合がほとんどです。血液透析は当院の最も重要な医療の柱のひとつと考えています。

大本昌樹透析センター長をはじめとし、優秀な臨床工学技士と看護師のチーム医療で今後とも今治における透析のリーダーとして事業を継続いたします。当院で安心して血液透析を続けてください。

発刊： 済生会今治病院 透析センター
代表： 透析センター長 大本 昌樹
患者数： 231名(6/17現在)

透析センター長

大本 昌樹



このたび済生会今治病院透析センターの院内誌として「そら豆」を発行することになりました。院内誌の名前は

「そら豆」に似ていることからその名前がついています。当院の透析スタッフより応募してもらったものの中から選び、腎臓の形が「そら豆」に似ていることからその名前がついています。

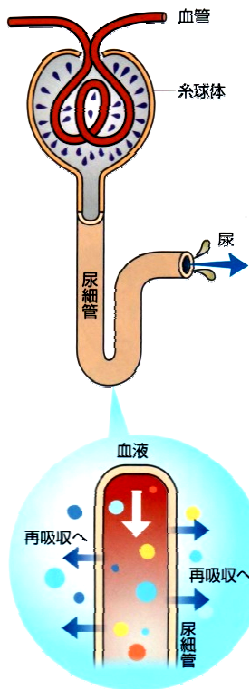
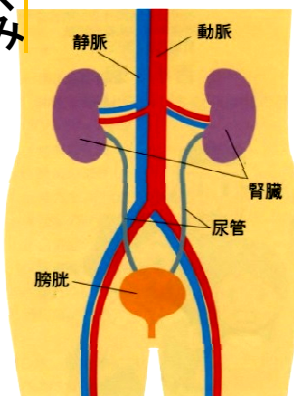
「そら豆」では透析を受けられている患者様、ご家族様に健康管理に役立つような様々な情報を発信するとともに、透析スタッフとのコミュニケーションを深めることができるようなものになればと思います。発行させていただきます。質の高い医療を行う上で患者様と透析スタッフの間に良好なコミュニケーションを築くことが重要であり、この誌面では透析スタッフより一方的に情報を発信するだけでなく、患者様やご家族からも様々な情報を寄せていただき、ふれあいを持てるような院内誌に育てていきたいと考えております。よろしくお願ひ申し上げます。

特集

1)腎臓のしくみ

腎臓は、背中側の腰の上に左右にある臓器です。

腎臓には、多数の『ろ過装置』があり、これは毛細血管の束である糸球体と、尿管から出ています。



腎臓に入ってきた血液は、糸球体でろ過され、尿管で必要なものを再吸収し、体に不必要な老廃物を尿として排泄します。腎不全とは、何らかの原因で腎臓の機能が低下した状態です。

◆慢性腎臓病(CKD)

慢性的に腎機能が低下している状態です



透析センター 科長 菅原 由紀

内科 大本先生が透析センター長に就任され、センター長の強い思いもあり、記念すべき第1号を、発行することができ嬉しく思います。私も科長として3年目を迎え、重症な腎不全患者様が透析療法によって元気になり、仕事や家事ができるようになるのを見ると、心から良かったと感じることがある一方、何とか良くなって欲しいと一生懸命努力するにもかかわらず、治療が難しく思うようにならず、患者様が苦しむ姿を目にするのも少なくありません。なんとか力になってあげたい気持ちがあっても、解決できないことがあると、まだまだ至らない部分をふまえ、反省する毎日です。

患者様が「正しい自己管理」を続けられるために普段の生活だけでなく、このような紙面上でも文字に含まれるメッセージを受け取っていただき正しい知識や気づきを得ることができたとしたら作り手と読まれる方との間に、コミュニケーションが結ばれたことになるのではないのでしょうか。

読み終わっての質問や感想など、なんでも構いません。声をかけてください。スタッフ一同、全力でサポート致します。



栄養補助食品のご案内

痩せている、体重が減少している、血清アルブミン値が低い(4.0以下)などの状態の患者様は、栄養障害があると考えられます。また、透析間の体重増加量が少ない、血清カリウムやリンの値が低すぎるなどの場合も、食事の摂取不良である可能性があります。

日本腎臓学会の食事療法基準では、エネルギーは27〜39kg/標準体重kg/日、タンパク質は1.0〜1.2g/標準体重kg/日。いずれにしても、エネルギーやタンパク質は必要な量をしっかりと摂取するようにしましょう。

高齢やその他の理由で食が細く、なかなか食事だけではエネルギーやタンパク質の確保が難しい方へ、今回『栄養補助食品』のご案内があります。

デザート感覚で食べやすいゼリー

(タンパク質6.2g/1個)

詳しいパンフレットなどありますので、透析スタッフに声をかけてください。



ご家族の方へ

食事療法は、透析患者様の自己管理において最も重要です。この度、透析食を実際に食べていただいて、

塩加減や調理のポイント、普段の食生活で困っていることなど栄養士が面談して、それぞれの患者様に合ったアドバイスをしてくれます。

後日、パンフレットをお配りしますので、参加をお待ちしております。

費用…食事代 5000円

腎友会会長より



済生会今治病院 腎友会 会長 阿部 瑛二

この度 透析センター便り「そら豆」を発刊するにあたり、寄稿のチャンスを与えていただき、誠にありがとうございます。

腎友会の一番の願いは、透析患者が安心して治療を受けられる、医療制度や福祉制度を作り、継続して守っていくことにつきます。制度がなかった、今から約四十年前には、まさに「金の切れ目が 命の切れ目」と、言われるくらいに、治療費の負担がのしかかり、たまらず団結して声を上げたのが「患者会」全腎協」です。その活動が実り、今の制度があるわけですが、医療費の増大から、透析医療を取り巻く環境が極めて厳しくなっています。そんな中、我々患者会が団結して、全腎協を支え、制度の維持・向上に全力を尽くしていますので、関係者各位の倍旧のご支援をよろしくお願ひします。

さて、みなさんに提案が一つあります。我々は嫌でも生涯透析を続けなければなりません。それなら、少しでも楽しい透析生活にしようではありませんか。『しっかり食べて、よく働き、しっかり透析する』

カラオケ、散歩、ゲートボール、家庭菜園などなど、趣味を持って毎日を楽しませませんか。透析は病気ではないのです。また、病院での仲間やスタッフとのコミュニケーションも大事です。透析生活が少しでも「楽」になるよう各位の工夫ががんばりましょう。